

代表続投論

小沢一郎代表の公設秘書逮捕・起訴をめぐる様々な議論が展開されている。新党日本代表の田中康夫氏、ジャーナリストの高野孟氏のお二人の論客に代表続投の必要性を論じていただいた。

受け取る側の心理で、同じ絵柄が少女にも老婆にも見えてしまうロールシャッハ・テストを御存知ですか？

「オザワング」こと小沢一郎氏は民主党代表を辞すべき、との回答が6割も、と鬼の首を取ったかの如く「記者クラブ」加盟各社は報じています。でもね、麻生太郎氏の現政権を認めず、の回答に至っては昨年末から6割台なのです。これぞ正しく「ロールシャッハ」現象。

他方、「辞任不可避」と絶叫の御仁が司会を務める「朝まで生テレビ」でも、64%が続投支持。この彼の違いは何故なの、と疑問を呈したら、生放送で3時間も検察批判を繰

世間では「小沢一郎代表は辞任せよ」の大合唱が続いているが、私は「辞任すべきでない」という意見で、自分が主宰するブログ・サイト「ザ・ジャーナル」でもその論調を繰り出している。袋叩きに遭うかと思いきや、むしろ正反對で「よく言った」「お前を見直した」といった賛成と激励のコメントが殺到して驚いたほどだ。

公権力の乱用に党全体で闘うべき

辞任すべきでない理由の第一は、元検事の郷原信郎教授が明快に指摘しているのとおり、大久保秘

り広げた影響でしよ、と「解説」するジャーナリストが居ました。だとするなら、報道の大原則たる「裏取り」もせず、「関係者に拠ると」なる枕詞を安易に用いて「大政翼賛御用報道」を連日連夜、

小沢・鳩山コンビだから手強い「官治から民治へ」の最終決戦

垂れ流した効果が冒頭に掲げた数値についてね？

既得権益勢力の悪あがきに怯むな

驚く勿れ、「関係者」たる捜査当局は「検察首脳会議」を公式開催せず、秘書逮捕に突入しました。

政治的・社会的影響が大きい案件の着手前には、検事総長、東京高検検事長、東京地検検事正らが一同に会す慣例をも無視し、現場検事が「関東軍」化した今回の暴走・迷走を、畏友・郷原信郎氏は

「ガダルカナル状態」と看破しています。

「小沢君は成長した。幅が広くなり、自分の考えをピチッと持っている。凄味も出て来た」と大勲位・中曽根康弘翁を以て言わしめた政治家・小沢一郎を、だからこそ「排除」

したい面々が、旧体制な既得権益集団には厳然と存在するのです。如何なる組織に於いて、人事と予算がマネジメントの要諦。にも拘らず、日本の政治行政は、匿名性に護られた官僚役

人機構が、人事も予算も牛耳ってきました。

真の政権交代こそ日本刷新の第一歩

人事と予算、更には法案の在り方をも根底から「二新」し得る智力と握力と胆力を併せ持つ指導

者・小沢一郎が率いる「政権交代」は、政界・官界・財界に加えて御用学者の学界・記者クラブの報界を含む「政官財学報」のムラ社会にとって恐怖そのものののです。換言すれば、オザワング「抜き」

「政権」が実現したなら、恰も赤子の手を捻るが如く、与し易しと連中は北

と同時に、小沢一郎・鳩山由紀夫コンビの民主党だから、自由民主党にとっては手強いのです。なあんちやつて小泉・竹

中へなちよこ偽装改革に愛想を尽かした、全国津々浦々で真つ当に働き・学び・暮らす健全なる保守層は、だからこそ、2年前の参議院選挙で1票を、政治家としての体温を感じさせる小沢・鳩山コン



田中 康夫
新党日本代表

ぶ保守層の票を取り戻したいのです。秋田県知事選の結果は、「全員野球」の大切さを改めて実感させました。寄り合い所帯とも揶揄され勝ちだった民主党の代表に就任して丸3年、党内に留まらず労働組合を始めとする友好団体、更には国民新党、社会民主党をも纏め上げた「オザワング」のマネジメント力とキャスティング力が、来る総選挙に於いても必要不可欠なのです。

今日はお疲れでしょう、と深夜の会談を早めに切り上げるべく氣遣った彼に、もつと貴方の話をお聞きたい、と求めたのはヒラリー・クリントン國務長官でした。フェア

でオープンでロジカルな「オザワング」の着想力と行動力を最も評価・期待しているのは、実はアメリカ政府なのです。自由党との合併直後の総選挙で私は、「日本の選択、始まる。」と記した民主党のポスターを企画・制作させて頂きました。それは、焦土と化した戦後日本に民主主義を、と誰もが願った往時の心意気を想起すべく、マイク

を握って戸外で真剣に訴える菅直人、小沢一郎両氏のモノクロ写真を2枚並べたデザインです。爾来6年。「官治から民治へ」と日本の刷新、始まる。」最終決戦に、私も新党日本も、小沢一郎代表と共に奮迅します。

叩かれたら代表を取り替へは愚革命的改革への権力闘争予告編

ないということである。こんな検察のやり方がまかり通るのなら、検察は

でもいつでも引っかけ叩き潰すことができることになる。検察ファシズムにも繋がるこのような

代表は田中金権政治の秘蔵っ子

第二に、それにしても小沢代表が西松建設から巨額の献金を受けていたのは事実であり、それは違法ではないとしてもダ



高野 孟
ジャーナリスト

公権力の乱用に対しては、民主党全体が闘って民主主義を守るべきであって、「民主党を巻き込むな」「辞任して個人で闘ってくれ」という議論は間違いである。

「ティナイイメージは拭えないから、その言わば道義的責任をとって辞任すべきだ」という声もある。しかし、そもそも小沢一郎という政治家を清廉潔白のクリーンな人だと思

も容易に想像がつく。米誌「タイム」3月23日号は小沢代表について「彼は一個の政治家としては最もラディカルな戦後政治体制への批判者であると同時に、その体制の最も

ここにこそ彼の破壊的なエネルギーの源泉があるのであって、そのことを民主党の皆さんはもちろん国民の多くも百も承知で、彼に政権交代への道を切り開く役目を託してきた

のではなかったのか。何を今更ということである。

企業・団体献金廃止を中心争点に

第三に、検察が粗暴な行動に出た背景には、検察を含む官僚機構が抱く

政権交代への不安感——「明治以来100年間の官僚支配を打破する革命的改革」を呼号する小沢代表への恐怖感があるに違いない。だとするとこの事件そのものがすでに政権交代をめぐる熾烈な権力闘争の予告編なのである。ここで民主党が簡単に引き下がって、清潔だが毒気もないような当たり障りない人物に代表をすげ替えれば票集めがやりやすいという後ろ向き発想に陥るのであれば、仮に政権が獲れたとしても「革命的改革」を成し遂げるような政権とはならない。もちろん、西松建設か

らの献金を含めた自らの政治資金収支の実態について小沢代表自らが国民の納得を得られる説明をすることは避けて通れないだろう。その上で、代表がすでに党内に指示している「企業・団体献金の廃止」に向けての抜本的な制度改革案を早急にまとめ、出来れば他の野党と共同で提案し、さらに公明党をも巻き込んで、これを総選挙の中心争点の一つに押し立てて闘えば、必ず政権交代への道は開けてくると私は思う。世間から叩かれると代表を取り替へるといふ愚をこれ以上繰り返してはしめない。